

インデックス投資は精神修養の場？

わたしは毎朝、株式を頻繁に売り買いしてくれる人たちに手を合わせて、「いつもありがとうございます」と呟いています。なぜだかわかりますか？

必死に株式を売り買いしてくれる、法人、個人、日本人、外国人の方が、日々『市場の平均点』を作ってくれているからです。

彼ら/彼女らの存在なしに、「インデックス運用」は成り立ちません。「市場の平均点」とは、さまざまな人間の汗と涙が詰まった〈瞬間・恍惚写真〉のようなものなのです。

したがって、インデックス運用は時に、「あなたたち、タダ乗りしているだけじゃない！」と揶揄されます。でも、「インデックス運用」もなかなか大変なのです。

まず、数々の「誘惑」に打ち勝たねばなりません。（こっちの金融商品の方がよいですよ、という誘惑は数限りなくありますから）また、「市場の平均点」というリターンで十分なのだ、と納得しなければなりません。（慎重しく、必要以上を求めない心構えが必要なのです）。

ロマンや波乱万丈の物語を捨て、ひたすら陽が昇り、陽が沈むという「冷めた日常」を受け入れる覚悟が必要です。

あの、お断りしておきますが、お友達と投資の話をしたとしても、インデックス運用の話は（間違いなく）盛り上がりません・・・。（市場の平均点の話聞いて、いったい誰が歓喜するでしょう？）

「インデックス運用」を実践する者は、いちいち騒がない。ハラハラドキドキしない。そして動かず、ただじっとそこに居る人なのです。

ある意味、「精神修養の現場」にいることが、インデックス運用を行うことに他ありません。

そこでわたしは自問自答します。「市場の平均点」に投資するとは、そんなつまらないものなのか、と。

実は「いちば」というところは、まったく動かないわけではありません。
株式市場は動いています。

市場の中では過去、【入場】と【退場】が繰り返されてきました。
たとえば、日本の市場を例に挙げますと、今まで、
安宅産業、山一証券、カネボウ、日本コーリン、ライブドアなど、
数多くの企業が市場から【退場】していきました。

そして、セブンイレブン、任天堂、ヤフー、ミクシィ、エーアイティーなど、
たくさんの会社が市場に【入場】しています。平家物語ではないですが、
長い目でみれば、個別の企業は「栄枯盛衰」を繰り返します。

その中で「いちば」はまるで巨大な胃袋のように、
個別の企業を飲み込み、また吐き出しながら貪欲に「変化」し、
成長を続けているのです（そうです、市場とは「生き物」なのです）。

その国の「市場の平均点」に投資を行うとは、
その国の「経済成長」そのものに投資を行うことです。
では、A国の経済が「成長」を続けるとは、一体どういうことなのでしょう？
それはA国の市場が、厚みを増し、大きくなっていくということです。

企業という「一個の運動体」に投資するよりも、
市場という「生態系そのもの」に投資する方が効率的である・・・。
わたしが、インデックス運用を実践する理由です。